

# 円筒埴輪

## 円筒埴輪とは？



最も大量に出土した埴輪である。4世紀頃に聖域を区別するものとして使用されていた大型器台が円筒埴輪へと変化した。もともと奈良を中心として使用されていたが、5世紀頃に東日本へ広まっていった。

## 円筒埴輪の起源

弥生時代後期に、葬儀用の特殊器台・特殊壺から円筒形の埴輪へ変化した。

## 円筒埴輪の種類

### ・普通円筒埴輪

普通の土管状のもの



### ・朝顔形埴輪

器台の上に壺を乗せた形をしている。上部は朝顔の花が開いたようにラッパ状に広がっている。



←昭和31年1～2月に尾崎先生が発掘調査をした有瀬1号墳で出土した円筒埴輪

## 古墳のどこに置かれているか？

円筒埴輪は、ほかの埴輪と一緒に古墳の上や周りに並べて置かれていたと考えられる。

## 群馬で円筒埴輪が出土した場所

### ・保渡田八幡塚古墳

5世紀に造られた全長9.6mの前方後円墳。6000本以上円筒埴輪が張り巡らされていた。

### ・有瀬1号墳

昭和31年に尾崎先生によって発掘。古墳は厚さ2m以上の軽石層で埋まっていた。

### 参考文献

- ①東国文化副読本2020年版（群馬県文化振興課）
- ②広報しづかわNo.13 令和2年7月15日号 p.9
- ③埴輪を置いた意味は（近つ飛鳥博物館）  
<http://www.chikatsu-asuka.jp/?s=child/13haniwa>
- ④古墳時代の群馬－東国文化の中心地（群馬県）  
<https://www.pref.gunma.jp/03/x4500021.html>